

雲南病院だより

附属掛合診療所の取り組み



附属掛合診療所 所長 服部修三

当診療所は、掛合総合センターや掛合体育館の近くに位置し、70年近くの長い歴史ある診療所です。

開設当時は、「掛合町立国保掛合診療所」という名前でしたが、産声を上げ、産婦人科、外科、内科、小児科の4診療科、病床数6床の有形診療所でした。その後、市町村合併により「雲南市国民健康保険掛合診療所」となり、さらに令和元年に雲南市立病院と経営統合し「雲南市立病院附属掛合診療所」と名称変更し、今日に至っています。

受診動向として、地区別では地元掛合の方が約9割で、隣接の吉田町を含めると

93%の方がこの2町で占められ、地元になくはならない医療機関です。また、年齢別では平均年齢78歳、50歳未満は全体のわずか約8%で、80代、90代に限ると53%と、高齢化が顕著です。

現在の診療科は、総合診療科と整形外科、歯科の3診療科体制です。母体である雲南市立病院の医師、看護師がローテーションで診療を行っており、診療内容については一般内科に限定せず、外科・整形・皮膚科・小児科分野など幅広く対応しています。本年4月より所長が笠芳紀医師より私、服部に交代し、引き続き地域医療への貢献を



服部所長を囲み職員一同で

行っていきます。また、専門的な治療については、市立病院附属の特性を生かし本院と連携・入院治療を含めた紹介可能な体制を整えています。

また、最近のトピックとして次の項目があります。

1 電子カルテ更新

診療所の電子カルテシステムを本院と同じメーカーに統一更新することにより、患者情報の共有が可能となり、在宅から外来、入院間の医療連携の円滑化を実現しました（1月から開始）。

2 設備整備 医療機器更新

療養環境の充実を図るため、抗ウイルス素材を使用した内装リフォーム、屋上防水工事、玄関外部手すり、車椅子体重計など、修繕工事や医療機器の更新を実施しました。



リフォーム工事完成後の廊下

3 時間外電話転送

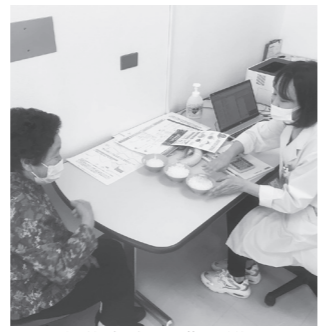
休日・夜間の診療所着信電話について、病院地域ケア科当番医師の携帯電話へ自動転送する運用を開始し、医療提供体制の向上を実現しました。これにより、休日・夜間に医師が不在であることで不安を感じる方の不安の解消につながります（令和3年4月から開始）。

4 温熱治療

腰痛、首や肩などの痛みに対して本院の理学療法士が週1回来院し、赤外線治療器を使用して炎症や痛みを和らげる温熱治療を行っています（令和2年9月から開始、令和2年度実績：計353件、令和3年度実績：計140件）。

5 栄養食事指導

高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病患者さんを対象に、月2回本院から管理栄養士が来院し患者さんごとに作成した食事計画案などについて指導を開始しました。診療所に来院される約8割の



栄養食事指導の様子

方が生活習慣病の該当であり、投薬だけでは対応しきれない生活全般を見守っています（6月から開始）。

6 新型コロナウイルス感染症対策

①発熱外来
新型コロナウイルス感染症疑いの患者さんの発熱外来について令和2年度より継続して通年実施しています。車内待機によるドライブスルー方式です（令和3年度実績：計122件）。

②新型コロナウイルスワクチン個別接種

毎週火・水曜日の午後を新型コロナウイルスワクチン1回目から3回目までの個別接種専用外来とし、延べ1,061人の方に接種を行いました（令和3年6月から令和4年3月まで）。



掛合中学校「夢」発見ウィーク

8 地域に開かれた診療所としての取り組み

①医療体験の受け入れ
地元の掛合中学校と三刀屋高校掛合分校より職場体験の受け入れを開始しました（令和3年度：3人）。
掛合中学校の生徒は、他の市内の生徒と比較して、「地元が好きだ」という数値が極めて高いというデータがあります。医療体験を通じて地元の良さや地域医療に触れる良い機会となっています。

7 在宅医療の推進

症状が安定して通院困難な患者さんに対して訪問診療、症状急変時や看取りの際の往診について、継続的に実施しています（令和3年度実績：訪問診療45件、往診37件）。

4回目接種は8月から実施しています。

9 歯科診療

②産業医、嘱託医
地元掛合町内の企業4社と産業医契約を受託し、事業所において労働者が健康で快適な仕事が行えるよう専門的立場から指導、助言を行っています。
また、掛合中学校の学校医、特別養護老人ホームえがおの里の嘱託医を受託し、多方面から掛合地区の健康、生命を見守っています。

①歯科診療
歯科では地域住民の皆さんの口腔の健康を守るための歯科医療を提供しています。当院の特徴は、担当医が「雲南市立病院歯科口腔外科部長」と「島根大学医学部臨床講師」を兼任しているため、一般的な歯科治療に留まらず、雲南市立病院や島根大学医学部附属病院との密な連携を実現していることにあります。口腔外科の専門医が、単に歯の治療を行うだけでなく、全身の中の口腔という意識を持ち、大病院レベルの知見で診療に従事していることが大きな強みです。



病院附属診療所としての特性を生かし、本院と連携、入院治療を含めた医療体制を提供します。健康のことで気になることがあれば、気軽に問い合わせください。 ☎0854-62-0135

総合診療医が答える

「こんな症状や疑問 持っていませんか？」

第28回：「両手のひらに、ブツブツが出るんですが、なんですか？」

このシリーズでは総合診療医が患者さんからいただいた質問をもとに市民の皆さんが困っている症状や疑問について解説します。



先日いただいた質問はこれです。

「両手のひらに、ブツブツが出るんですが、なんですか？」

内科外来で診察させていただいた患者さんの症状です。両手のブツブツを見て、皆さんはどのような病気か心配になりますか。

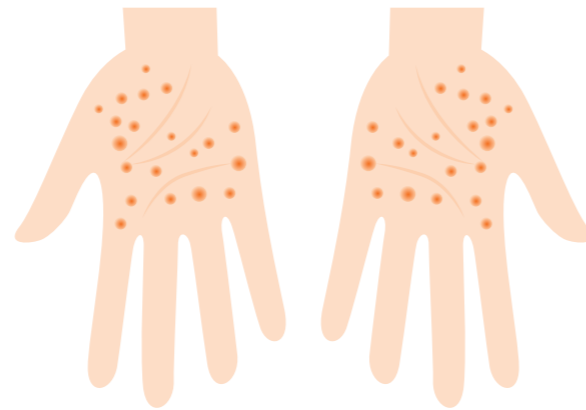
皮膚とは皮膚全体に起こる皮膚の変化のことを言います。ブツブツもそれに含まれています。皮膚には、ブツブツ以外に赤くなったり、紫になったり、皮膚の色が変わったりするものも含まれています。

皮膚自体は珍しい症状ではなく、新患外来や定期外来でもよく出会う症状です。皆さんも自分の身体でどこかが痒くなったりして、そこが赤くなったらカサカサしているのを発見したことがあると思います。皮膚は日常的に我々が遭遇する症状です。

一方で、手のひらの皮膚はとても珍しいものです。手のひらは角質が厚く、普通は皮膚が起こることはありません。手のひらに皮膚が起こった場合、全身に何らかの強い炎症が起こっている可能性があります。多くの場合が感染症で、日本紅斑熱やツツガムシ病などのダニによる感染症、梅毒、子どもであれば、手足口

病などがあります。中には自己免疫による病気も隠れています。どれも生活の質を落とす病気ばかりで、早期発見・早期治療が可能なものがあります。今回受診された方は最終的にツツガムシ病と診断し、早期に抗菌薬を投与しことなきをえました。

手のひらに皮疹が出る場合は、できるだけ早く、かかりつけ医に受診するようにしましょう。



手のひらの皮疹は、治療の必要な感染症や膠原病のことがあります！



7月29日、職員で正面玄関入口に笹飾りとスイカ提灯を取り付け、また、外には大笹飾りを設置しました。これまでは、病院ポランテアの皆さんと一緒に設置していましたが、新型コロナウイルス感染症が流行し、今回は職員だけで設置しました。コロナ禍で、不安と日々緊張の中過ごされている患者さんや来院される皆さんに少しでも七夕の気分を味わってもらいたいと思います。毎年続けて設置しています。



七夕祭り・スイカ提灯

一日でも早く、新型コロナウイルスが収束し、安心して日常が送れる日々が来るよう職員の願いを込めさせていただきます。皆さんの願いが叶いますように。



歩行補助具の選び方 ～自分にあった杖の選び方～



前回の病院だよりでは「靴の選び方」の話をしました。今回は「杖の選び方」についてお話しします。

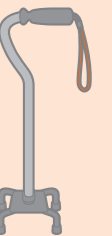
私たちの雲南市は高齢化率が約40%であり、島根県の高齢化率（約34%）よりもやや高い状況となっています。年齢に限ったことではありませんが、高齢になればケガや病気で歩きにくさが生じたり、活動することが減り、歩きにくさを生じている方もいます。歩行のリハビリテーションのためや、普段の外出時にスムーズな歩行をするために杖を使うことが多くなります。

＜杖の役割＞ 杖の役割について紹介します。

- 歩行を補助する
杖の最も大きな役割です。杖を使って体を支えれば、歩くときの体の安定性が高まります。そのため、杖を使いながら歩くと、体のふらつきを抑えながら、テンポよく歩くことができますようになります。
- 足腰への負担を軽減する
足腰の筋肉が衰えてくると、歩く時に足腰に大きな負担がかかってしまい痛みの原因となります。杖をつくことで体重が杖にかかり足腰にかかる負担が軽減します。
- 歩くことへの安心感がでる
一人で歩くことが難しくなると一人での外出は不安が生じます。そのため、自然と外出の機会が減っていき、家に閉じこもりがちになってしまうこともあります。しかし、杖を使えば、不安を抱くことなく歩くことができる上に、障がい物も見つけやすくなります。

＜杖の種類＞ 最近はとても多くの種類の杖が開発されています。ここではその中でもよく見掛けられる機会が多い杖を紹介します。

- 伸縮杖
杖の中で最も典型的な杖です。長さの調節ができるので、初めて杖を使う方にもお勧めです。
- 折りたたみ杖
杖が必要になったときだけ取り出して使うことができます。常に杖が必要なわけではない方にお勧めです。
- 多点杖
地面に接する点が多いため、通常の杖よりも安定性が高く、しっかりと体重がかけられます。注意点としては、杖の先が分かれているため段差があるとバランスを崩しやすいため、平面な通路などでの使用をお勧めします。



＜杖の選び方ポイント＞

- 身長にあったもの
杖を持って、持った手の側の足先20cmのところに先を置く。この肘が30度程度曲がっているとちょうどいい長さです。
目安の長さの求め方
 $(身長(cm) \div 2) + 2 \sim 3cm$
- 握りやすさ
握りにくいグリップを使っていると、手が滑ってしまうことがあります。グリップの握りやすさも非常に重要なポイントの一つです。
- 目的や環境も考える
例えば姿勢が悪い方は多点杖など、自分の身体機能や用途に合った杖を選ぶことが大事です。また、利用する環境によっても適している杖は変わってきます。例えば段差が多いところを歩く時は、多点杖は適しません。また、松葉杖は幅の広い通路では使いやすいですが、狭い道は通りにくいため、適していません。両手に持つのか片手で持つのかも同様です。



◎選び方が分からない場合、リハビリ専門家や福祉用具専門家に相談しましょう！